

平成 23 年度 第 6 回市川市市政戦略会議

1. 開催日時：平成 23 年 10 月 20 日（木）午後 3 時 30 分から午後 4 時 35 分
2. 場 所：市川教育会館 3 階 多目的ホール
3. 出席者：（敬称略、50 音順）
 - 会 長 栗林 隆
 - 副 会 長 田口 安克
 - 委 員 青柳 圭子・青山 真士・岡田 稔彦・小池 信行・田平 和精
・平田 直・福井 茂子・森 和男
（欠席）大矢野 潤・秦泉寺 友紀・鈴木 真理・中台 實・吉原 稔貴

 - 市 川 市 大久保 博 （市長）
 - 笠原 智 （企画部長）
 - 萩原 洋 （企画部次長）
 - 大津 政雄 （企画部企画・広域行政課長）

 - 伊藤 博 （企画部行政改革推進課長）
 - 小林 茂雄 （企画部行政改革推進課主幹）
 - 植松 美穂子 （企画部行政改革推進課主査）
 - 阿部 保昭 （企画部行政改革推進課主任）
 - 吉岡 茂幸 （企画部行政改革推進課主任）
4. 提出資料：資料 1 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」実施概要
資料 2 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」施設・事業シート(概要説明書)
資料 3 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」評価シート
資料 4 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」対象候補施設 原集計一覧表
資料 5 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」対象施設状況一覧表
資料 6 グループ別 委員一覧
資料 7 会場配置図
資料 8 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」対象施設の概要
資料 9 平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」対象施設 位置図

【午後 3 時 30 分 開会】

○伊藤行政改革推進課長

本日より、平成 22 年 10 月 1 日に大久保市長より諮問のあった事項のうち、「(1)行財政改革②施設のあり方について」ご審議していただくこととなる。この諮問事項に対する審議の進め方については、平成 23 年 11 月 19 日土曜日に平成 23 年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」を開催し、その検討結果を後日答申するものである。

まず、大久保市長よりご挨拶申し上げます。

○大久保市長

市政戦略会議委員として皆様に委嘱してからちょうど 1 年が経過した。今回は委嘱してから 3 つ目となる施設のあり方についてご審議いただきたい。市の施設は民間と違い、市民にご満足いただけることに施設の大きな存在意義があることから、費用対効果ばかりで明快に良し悪しをはかれない面もある。したがって、財源捻出については余り考慮しなくてもよろしいと考えている。ただ、施設のさらなる有効活用あるいは効率運営は常に求めなければならないので、そういった視点でご意見をいただきたい。担当者にはなかなか見えない部分をご指摘いただき、それを活用させていただきたい。皆様の鋭い感覚でご意見を頂戴できれば大変ありがたい。

(大久保市長 中座)

○栗林会長

11 月 19 日土曜日に「施設の有効活用にかかる公開検討会」を開くことが決まった。まず事務局から資料について説明をいただきたい。

○笠原企画部長

今回の「施設の有効活用にかかる公開検討会」は、昨年の事業仕分けの良かったところは継続し、悪かったところは改善した、今までにあまりない公開ヒアリングの形式で行う検討手法である。

(以下、資料 1 について説明)

○笠原企画部長

続いて資料 8 について、各施設に対する市としての考えに触れたい。

『水木邸』

利用者 1 人当たり費用が高額であり、管理運営方法、市民により多く見ていただく方法、学習

の場としての活用について、どのような改善ができるのかご意見をいただきたい。

『中山文化村』

清華園、旧片桐邸ともに市民より寄贈いただいた、歴史ある土地・建物であるが、特に旧片桐邸は立地の関係もあって一般の方が行きづらいこと、東日本大震災で建物が損傷を受け、安全のための修復に5千万円が必要と見積もられていることが問題である。これらをいかに保存するのか、あるいは違う活用があるのかをご検討いただきたい。

『郭沫若記念館』

利用者1人当たり費用が600円近くになっており、より効果的な有効活用についてご検討いただきたい。

『考古博物館、歴史博物館』

施設の老朽化、立地の関係で来館者が余り多くないという実態がある。今後、外環道整備等周辺状況も大きく変わってくる中、市川市の歴史財産をいかに市民の方々に提供すべきかご検討いただきたい。

『自然博物館』

市川の自然のありさまを記録して後世に伝えるというテーマであるが、これを自然博物館という位置付けで実施することが適当かどうか、また動植物園との統合も一つの手ではないかという意見が行政内部にはある。市民感覚からよりよい形での運営・展開方法についてご意見をいただきたい。

『大柏川第一調節池緑地ビジターセンター』

広大な敷地面積を有する調節池緑地の入口に立地しているが、ビジターセンターの有効活用があまり図られていないのではないかと。環境という側面での利活用をうたっているが、改めて違う視点もいれてご検討いただきたい。

『地域ふれあい館』

もともとは青少年館という名称だったが、高齢者利用が中心であることから地域ふれあい館に衣替えした施設である。しかし目的が明確でなかったり、利用者が固定したりしており、行政としてもその位置付けに悩んでいる。新たな目でご意見をいただきたい。

『アイ・リンクセンター』

市川の再開発に伴って設置された貸館であり、開設から3年経ったので、駅前に立地するという点も踏まえ、改めて違う視点から有効活用策をご検討いただきたい。

『八幡市民談話室』

JR本八幡駅北口の国道14号と交差する交差点に立地し、場所としては非常に良いが、より有効な利活用について、新たな視点からご検討いただきたい。

『南行徳市民談話室』

利用率は比較的高いが、地域の実情も踏まえた新しい視点からご検討をいただきたい。

○栗林会長

市長からは、費用対効果等については余り重視しないでほしいということ、市民サービスの観点から有効活用、効率運営についてぜひ意見をいただきたいということであった。ただ資料5を見ると、対象施設全部の費用の合計が約3億7,000万円であることから、コスト、費用対効果については余り踏み込まずとも無視しなくてもいいのではないか。そのようなことに関して良いアイデアがあればぜひ挙げたほうがいいのではないか。市川市は財政的には潤っているほうだが、財政力指数の低い他の自治体の中には、博物館のような建物は予算がとれず閉館せざるを得ないケースも多く起きている。ただ今回は、財源はあることを前提により有効な、効率的な活用・運営について議論してほしいというのが市長の諮問である。

質疑はないか。

○小池委員

今回対象とならなかった施設についても参考までに教えていただきたい。まず芳澤ガーデンギャラリー・東山魁夷記念館の利用1件当たりの一般財源はどのぐらいか。また東菅野児童交通公園は非常にいい施設だと思うが、老朽化が進み、利用の状況がどうなっているのかという観点で、利用1件当たりの一般財源額を教えていただきたい。

○笠原企画部長

芳澤ガーデンギャラリーの年間利用人数は2万313人で1人1回当たり一般財源額は1,491円。東山魁夷記念館は2万5,688人で5,156円。東菅野児童交通公園1万9,847人で126円である。

○平田委員

考古博物館と歴史博物館は別々の建物か。また年間利用人数が4万3,671人となっているが、館別の内訳は。正規の職員数8名というのは、全員が学芸員なのか。

○笠原企画部長

別々の建物である。利用人数の内訳と職員の職種は手元にデータがないため、勉強会の際にお示しする。

○青山委員

考古博物館と歴史博物館は市の北部にあるが、例えば松戸や柏など市外から来ている方の人数がわかれば教えていただきたい。

○笠原企画部長

同じく手元にデータがないので、勉強会の際にお知らせできるものはお知らせしていきたい。

○栗林会長

では、審議のグループ編成について資料6によりご説明いただきたい。

○伊藤行革推進課長

(資料6について説明)

○栗林会長

引き続き、全体的な趣旨、目的等についてご意見があればぜひ伺いたい。

○小池委員

対象となった文化施設は全部行ったことがあるが、文化施設は基本的に駐車場がなく、周辺の道路が狭いということもあってアクセスが悪い。これが、利用者が少ない理由の一つだと思うが、例えば駐車場をつくるということを提言してもよろしいのか。

○笠原企画部長

ぜひそういう提言もいただきたい。

○田口副会長

今回は事業仕分けでないということで、昨年のように廃止だとか改善だという評価をするのではなく、資料3のような書式で、施設ごとにフレキシブルな結論を考えるとということでもよろしいか確認したい。

○笠原企画部長

そのとおりである。なお、たとえば教育施設は法律で基本的に無料とされているのでそこにコスト縮減ばかりを求められるのは厳しいが、費用面での効率的運用は視野に入れてご検討いただきたい。

○栗林会長

ほかに質問はないか。なければ本日の戦略会議はこれで終了する。

【午後 4 時 35 分 閉会】